

平成 27 年度 4 県連携自主防災組織交流大会メモ

三重県津市 中村保親氏

- ・自治会の下に社協、自主防災協議会があり連携、月一回会合を持っている。
- ・各会の代表、毎年変わる。問題ではあるが、毎年訓練が必要ということになっている。
- ・高台の団地の居住者も、被災したら避難所へいく。
- ・避難所になる施設の鍵は地域で預かっている。
- ・海際の居住者で被災後高台へ上がってくる方々との協議も毎月行っている。
- ・避難してくる人は自分の物資は自分で持ってくること！
- ・施設の被災確認、物資、食料、ロケットストーブ作り・・・班分けをしてある。
- ・避難所となる学校校舎内の機能別エリアわけ、すみわけを。
- ・「顔が見える」地域とのつながりが大事。顔がわかると仲良くなり忘年会も。

和歌山県みなべ町 中本光一氏

- ・南高梅全国シェア 65%。世界農業遺産に登録。
- ・他、うるめいわし、うばめがし（備長炭）が特産。
- ・自主防みなべ H22 年 10 月設立。
- ・避難困難地域の解消策をすすめている。

高知県宿毛市 河野典生

- ・恐ろしいモンスターがやってくる！
- ・学校防災 ⇔ 地域防災
- ・自治会の長など、役職にある人がその名札を「防災・・・」に付け替えるだけではだめ。実効性がないから。
- ・「防災隣組」を。防災組織の前の近所づきあいを。
- ・農業漁業に中国人、ASEAN からの人も要支援者。言葉の問題。盲点になりやすい。
- ・「自存自活」自分の力でまず生きて、地域の互助で生き延びる。
- ・ソフト：教育、訓練、体制・・・、ハード：建物、設備・・・
- ・「時間軸」に沿ってポイントをあぶりだす。シーンごとに想定しておく。
- ・自助 ⇔ 「防災隣組」 ⇔ 共助 自助と共助をつなぐ、基礎単位。
- ・100 回の訓練は、ただ 1 回の為。
- ・おにいちゃんがやっているおねえちゃんがやっているともだちがやっている・・・からぼくもやる！子供は相互連帯意識が強い。こどもと直接かかわる先生の役割大事。
- ・「避難しない理由を探さないこと」
- ・「家族たちもそれぞれちゃんと逃げているはず」という信頼感をもてるような準備を。

## 徳島県美波町 瀬戸興宣

- ・四年間の取り組みをこの時間で話すのは無理。メモを取らずに聞いていて下さい。
- ・むずかしく考えないこと。気軽に行こう。
- ・防災組織はピラミッドではなく。会長の下に8人の副会長、その下にみなさん。
- ・過去の経験は参考にしない。
- ・海拔 20m ラインをセーフティラインとする。そこまで逃げたらあとはゆっくりで。
- ・橋は渡らない。落ちているかも。津波は川を遡る。
- ・「避難口」までまず急ぐ。揺れが3分、仕度3分、避難口まで移動3分～6分。でいける。
- ・健常者は避難口で要支援者を「待てる」「手伝うこともできる」少なくとも12分以内は。
- ・絶望的に早く津波が来る地域でも、港で1mの第一波の後まだ逃げる時間あると考える。
- ・津波で死ぬと捜索などで残った人に迷惑をかける。と考える。
- ・避難放棄している人に、持ち出し荷物をつくれという準備ははじめる。
- ・要支援者は、避難所に荷物を預けておく。
- ・避難完了を各所で携帯に貼ったシールを読みこむことで確認する？
- ・備蓄食、賞味期限が少々切れていても食べられる。
- ・シルバーカーが集結して足腰のトレーニング。おやつを食べる社交場になり大盛況。
- ・避難口まで来るだけよ、といえ、気軽に参加してくる。
- ・若い子にスマホを操らせて、作業は若い年寄のボランティア、役員はリーダー役に専念。
- ・気がついたらまずやること。そうして次が見えてくる。
- ・地域の力を維持する。

## 中野晋先生をコーディネーターに PD+α

- ・教育委員会と防災関係は相容れないが学校と地域はいけている。先生には負担かも。
- ・校長先生が活動を理解してくれているので、校長交代の際もちょうんと引継ぎがある。
- ・転出した先生は・・・ほっとしている。が、一度経験したことは忘れないはず。
- ・津波タワーや避難センター、普段はPに？実際に津波が来るとまずいので結局は無用途。
- ・「防災隣組」防災の「手前の段階」づくり。人間同士のつながり、絆、相互理解。ごみステーションの片付けとか、草刈りとか、にちにちのことを、子供たちも巻き込んで。
- ・ICカードを開発中。何名が安全圏へ入れたかスマホで読み込んでチェック。即時集計。カードが無ければマニュアルで入力も可能。
- ・人と人がつながる。窓口がわかる。知っていく。考えていく。
- ・普段の地域のコミュニケーションの上に「防災」がある。
- ・住居、職場、遊び場、少なくともみつつの場所での逃げ場を考えておく。
- ・施設の被災度確認は、住民がやり方を知り自分たちでやる。建築士に頼ってもこないかも。
- ・発災後の学校の対応、部屋の使い方、機能変換、通路、避難民の受け入れの仕方など、校長を中心に学校に考えてもらっている。